

し。

(三)噴潮及潜水。——噴潮は普通眞直に且一本に一〇—一五呎の高さに達す。潜水の時間は時に四—五分、長き時は十五乃至二十分、距離にして、三〇〇—四〇〇尋を潜行せる後水面に現はれ、呼吸三回にして再び沈む。

(四)速度。——遅し。全速力にて毎時七—八哩、普通は三—四哩、沿岸廻遊の際の如き二—三哩、而して好んで海岸近く、時に浪打際を泳ぎ廻り、捕鯨船に追はれし際の如き、汽船の近き得ざる淺瀬に遁れて捕獲を免るゝ事などをなす。

(五)食物。——數十の個體を解剖し見たれど殆ど食物と稱すべきものを發見し得ざりき。是、COMMON等の觀察せる所と一致す。蓋し移動の途中並に生殖期のコクデラは殆ど食物を取らざるものゝ如く、若し取れば、此地方に多き水母を食ひ居るなるべし。これに反し北方棲息場にては充分の食物を攝取し居るものゝ如し。

(抄者曰く、一部の日本人が四國にて觀察せる所に於ても亦、胃中食物なし。但し日本の捕鯨者間には、古來、ナマコ又は蟹を食ふと傳へられ居れり。)

(六)愛情。——雌雄の愛情強く、雌傷くも雄は其傍を去らず、爲に共に漁獲せらるゝ事あり。雌の其子に對する愛情の強きは又有名なるものにして、此鯨の *Devilish* と稱せらるゝは、其育兒期間の兇暴なるに基くなり。

(抄者曰く、子持ちのコクデラに近く、危険なるは、徳川時代の日本捕鯨者の亦特記せる所なり。)

(七)逆戟の襲撃。——此鯨は、逆戟に襲はるゝ事、他の鯨よりも甚し。而して此敵に遭へば、コクデラは、恐怖の餘り、仰向になり、胸臆を擴げ少しも動かす。サカマタ即ち其吻を鯨の口中に差入れ、其舌の前端を嚙切る。されば、予の檢するを得たる三十五頭のコクデラ中、七頭迄は其舌完全ならざりき。

(八)大さ。——測定數雌五十三、雄九十五。前者四五—四二呎、後者四三—三六呎。之を東洋捕獲會社々員の測定せる所と綜合するに、雌の平均約四一呎、雄の平均約三九呎。最大限四五呎。

(抄者曰く、原文には四十頁ばかりに涉れる詳細なる外形及骨格の記載あれども省略す。要するに此鯨の形態は、長簀鯨亞科並に春美鯨亞科の間の性質を帶ぶといふ。而して、春椎は C: 7; D: 14; L: 12; Ca 23—26 にして、○は悉く分離す。從來 L: 12 と記されたるは多分誤りなるべしといふ。)

(九)類縁。——内外形態より論じて、此鯨は、現生有鬚鯨類中最も原始的なるものなり。而して上記の如く、長簀・春美兩鯨亞科の中間、就中前者に近き構造を有すと雖、必ずしも其等に最も近き類縁ありといふに非ず。種々の點より考察して、是に最も近縁あるは鮮新世の化石鯨 *Plesiocetus* なるべし。而して是は現世の長簀鯨亞科に類縁あるものなり。

(永澤六郎)

●骨片の綿火藥瀘過蒐集法

Crawshaw, L. R. — A Method of Separating Sponge Spi-

cules by Filtration." (Jour. Mar. Biol. Ass., X, 4, 1915)

此法は著者が海綿の骨片を集むるに用ゐたる方法なり。されど硅藻殼其他、アルコホール並にエーテルに溶けざるものと蒐集にはすべて應用する事を得。而して著者のいふ所によれば、遠心機を用ゐるよりも簡便として利益多し。

是に用ゐる器械は内徑半吋長さ八吋位の硝子管一本なり。但し其先は細く延ばして八分の一時位の直徑となし置くべし。濾過用の綿火薬は即ち其所に厚さ同じく八分の一時位に軽く詰め込み置くなり。而して管は別に適當のコルク栓に箝め込み置く。フラスコなど、濾過液を受ける器上に管を支ふる時の便宜に備ふるなり。

骨片は先づ試験管に入れ、硝酸若くは Javel 液にて煮水洗したる後、之を上記の濾過用硝子管中に明く。而して水の充分に濾過せられたるを待ち、更に順次、水及九〇% アルコホール(二回)を加へて洗滌し、其終りたる後、塞栓となり居る綿火薬を管中に推し戻し、之を細き試験管中に明く。然る上に、無水アルコホール並にエーテルを等量に混じたる液を注ぎ、コルク栓にて密閉し、之を振盪して綿火薬を溶かし、管底に骨片のみを残留せしむるなり。されど念の爲、そのアルコホール＋エーテル液をビベットにて入れ換へ、再び振盪したる後、更にその液を除き、九〇%のアルコホールを加へ、骨片の器底に沈むを待ち、拾ひ上げてプレパラートに作るなり。其際猶綿火薬の殘片あらば、火を以て焼くも可なれど、唯それにては高熟の爲屢骨片を溶かすの恐れあり。又右の濾過は壓力を加へ

て促進するも可なれど、これも結局は骨片を損するの結果を醸す虞あり。(永澤六郎)

●「イクシオスポリヂウム」の發育環と

「ハプロスポリヂア」の所屬

ALEXEIEFF, A. "Sur le cycle évolutif d'une Haplosporidie (*Ichthyosporidium gastrophilum* CAVIERY et MESNIL)." ("Arch. Zool. exp. gén., note et revue, 54, 1914.)

著者はロスコッフの生物研究所に於て、*Notella mustela* L. の直腸に寄生する *Ichthyosporidium gastrophilum* CAVIERY et MESNIL の發育環を研究し、下の如き結果を得たり。

(A) シゾゴニー。

二核を有するシゾント——モルーラ様のプラスモード
厚形質分裂に依る増殖——モルーラ様のプラスモード
——4×10 の單核シゾント——二核のシゾント(若くは
スポロント)。

(B) スポロゴニー。

二核のスポロント——プラスチュラ様のプラスモード
——4×10 の單核胞子——單核シゾント——二核シゾ
ント。

次に著者は Mycetozoa 中に Haplomycetozoe なる一
亞目を設け、從來 Sporozoa 中に入れ置かれたる Haplosp-
orida を此處に移して Haplosporididae なる一科となせ